

レタス・冬どり(ハウス、露地)

君津農林振興センター

1 地区名(集団名)

袖ヶ浦市(JAきみつもつと安心平川レタス生産グループ)

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 16戸
- (2) 栽培面積 238.7a
- (3) 収穫量又は出荷量 67t (2,806.8kg/10a)
- (4) 出荷先又は販売方法 JAきみつ・市場出荷

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況		ちばエコ基準
	ハウス	露地	
化学合成農薬(成分回数)	5回	4回	9回
化学肥料(窒素分量)	10.2kg/10a	7.5kg/10a	12kg/10a

4 事例のあらまし

袖ヶ浦市では平成19年からちばエコ栽培の取組が始まりました。本年はレタス部会員に広く声をかけ、ハウス栽培を中心に16名、238.7aの取組へ拡大しました。前作のサヤインゲンでもちばエコ栽培に取り組んでおり、安心・安全な農産物を提供する意識が高いこともその背景にあります。

また、ちばエコ栽培が難しいとされる露地レタスで現地実証試験を行い、12月どりの露地レタスではちばエコ栽培が十分可能だという生産者の一致した見解が得られました。

現在秋どりレタスで導入されている黄色防蛾灯の追加導入も検討されており、さらなる袖ヶ浦のちばエコレタスの生産拡大が期待されます。

5 背景・動機

小櫃川流域の水田地帯では、昭和20年代後半から水田裏作の品目としてレタス栽培が始まりました。その後露地栽培に加えてハウスが導入され、厳寒期の1～2月をハウス栽培、それ以外の10～3月を露地栽培という体系がとられています。

平成19年に5名がハウス栽培90.6aでちばエコ農産物の認証を受けました。これは農地・水環境保全向上対策事業の一環での取組でしたが、肥料面は前作のサヤインゲンの残存肥料があり、有機質肥料主体で施肥量を減らしても栽培できることと、防除面はハ

ウスであるため防除回数が少なくすむことから、ハウス栽培ではちばエコの基準内で十分栽培できることが実証されました。

ハウスの前作品目のサヤインゲンでもちばエコ農産物に取り組んできた実績もあり、ちばエコ栽培に対する生産者の意欲が高かったため、本年は袖ヶ浦園芸組合レタス部会のメンバーに広く声をかけ、ハウス栽培を中心に16名の生産者が自主的に取り組み238.7aがちばエコ農産物の認証を受けました。

また、12月どりの露地レタスでも取り組み始めました。露地レタスのちばエコ栽培はこれまで課題が多く、生産者も消極的でした。例えば秋レタスはリン翅目害虫の発生が多く、防除面で課題があります。冬どりは水田裏作で厳寒期に向かう作型のため肥料要求量が多く、また大玉にするためには初期に外葉を大きく作る必要があります。化学窒素成分がある程度必要で、慣行栽培では窒素施用量が30～35kg/10aにもなります。このためちばエコの基準で栽培すると、小玉になったり、葉色が淡くなるなどの問題がありました。

そこで、本年度は12月どりに絞って露地レタスのちばエコ栽培の実証試験を行いました。その結果、慣行に並ぶ品質のレタスが収穫でき、12月どりではちばエコの基準で十分栽培できるという生産者の一致した見解を得られました。



よく揃った生育中のハウスレタス



露地レタスのちばエコ栽培現地検討会

6 栽培方法

(1) 土づくり

ハウス栽培は前作終了後にふすまを用いた土壌還元消毒を実施し、地元産の牛ふんたい肥や自家製の稲わらたい肥などを1～2t/10a投入しています。露地栽培は水稲終了後、わらをすき込み地元産の牛ふんたい肥を1～2t/10a投入しました。

(2) 品種

ハウス栽培では、「サリナス88」、「アスレ」、「ブリザード」、露地栽培では、「レオグランド」、「D J ジョイグリーン」、「スーパー鴨川」が主に栽培されています。

(3) 播種および育苗

播種はJAきみつ平川経済センターの育苗センターに委託し省力化を図っています。

す。播種後約2日で自宅に引き取り、その後は寒冷紗を張って棚の上で育苗し、病害虫から防ぎました。育苗日数は20～30日です。

(4) 施肥設計

ハウス栽培は塩類集積などが問題となるため、土壌還元消毒終了後、全戸が土壌診断を受けています。分析は袖ヶ浦市農業センターに依頼し、その結果に基づいて農林振興センターが施肥設計を作成し適正な肥培管理を実践しました。

(5) 防除

レタス栽培では、オオタバコガやハスモンヨトウなどのリン翅目害虫の食害が問題となります。袖ヶ浦市内2カ所に設置したフェロモントラップによる成虫の捕殺頭数を毎週調査し、その結果をFAX送信やJAに掲示することでリアルタイムな防除対策につながっています。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日	
	ハウス栽培	露地栽培
前作収穫終了	平成20年 7月10日	平成20年 8月25日
播種	9月26日	9月17日
定植	10月20日	10月10日
収穫開始	平成21年 1月上旬	12月18日
収穫終了	2月上旬	12月25日

イー1 使用資材 (ハウス栽培)

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
ふすま	平成20年 7月31日	1t		
ジシアン有機特806号 (8:10:6)	10月20日	200kg	16kg	10.2kg
合 計			16kg	10.2kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
アファーム乳剤	オオタバコガ、ナモグリバエ、ハスモンヨトウ	平成20年11月 3日
プレオフロアブル	オオタバコガ、ナモグリバエ、ハスモンヨトウ	11月14日
スミブレンド水和剤	灰色かび病、菌核病	12月25日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類	12月25日

イ-2 使用資材（露地栽培）

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛ふんたい肥	平成20年 9月25日	1t		
ホープブリケット046号 (10:14:6)	10月13日	300kg	30kg	7.5kg
合 計			30kg	7.5kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
アファーム乳剤	オオタバコガ、ナモグリバエ、ハスモンヨトウ	平成20年11月 3日
プレオフロアブル	オオタバコガ、ナモグリバエ、ハスモンヨトウ	11月14日
フェニックス顆粒水和剤	オオタバコガ、ハスモンヨトウ	11月25日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類	11月25日

7 今後の展望等

(1) 生産面

ハウス栽培は土壌診断に基づく減肥を実践し、ほとんど肥料を投入しないケースもあります。しかし、近年秋から冬の気温が高いことから、大玉になりすぎたり、形状が乱れたりすることがあります。形状の安定した品種の選定、温度管理、かん水管理などで品質を向上させる必要があります。

露地栽培は施肥面で課題がありましたが、本年の現地実証試験結果から、12月どりまでならばちばエコ基準で栽培できるという生産者の一致した評価を得られました。次年度は12月どりを中心に露地のちばエコ栽培の取組を推進していきます。

防除面では、10～11月どりで既に導入され、効果が確認されている黄色防蛾灯の新規及び追加導入が検討されており、12月どりのちばエコレタスにおいても防蛾灯を使用することでリン翅目害虫の食害を低減できる見込みです。

(2) 流通・販売面

県内市場を通じて、エコ農産物の販売に力を入れている大手量販店を中心に販売されています。ただし、レギュラー品との価格差が発生するかについては見通しがつきません。

生産者から、「バイヤーや消費者に対して定期的に産地情報やレシピの紹介などを提供し、産地を知ってもらおう活動をしたい。」という動きも起きています。このような活動を継続することで袖ヶ浦のちばエコレタスの認知を広げ、価格にも反映されるようつなげていきます。